



学力アップだより

家族と音読
してみよう！



青柳小学校 令和3年9月 第6号

青柳小学校のテーマは『**学力向上**』です。今年度も、様々な角度から子供たちの学力向上に役立つ情報をお家の方にお知らせいたします。保護者の皆様とともに、子供たちの未来のために、学力を向上させていきたいと思います。今回のテーマは、「全国学力・学習状況調査」の結果とその活用についてです。

～全国学力・学習状況調査で何がわかるの？～

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が子供たちの学力状況を把握するため、小学6年生と中学3年生を対象に平成19年度から実施している調査です。

1 何を調査しているの？

小学校は、国語と算数と質問紙による調査があります。今年度は、小学校で新学習指導要領に基づく初の出題となりました。国語・算数の学力とともに、質問紙調査で児童の考え方や生活の様子と学力との相関関係も明らかになっていきます。

1 教科に関する調査（国語・算数）

- (1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

2 質問紙調査

- (1) 質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 何ができ何が課題かの確認を！



～青小っ子の学力が着実に高まってきました！～

平均でみると、国語は全国や県を上回り、算数で下回る結果となりました。青小っ子の学力は、着実に向上してきています。特に学校全体で取り組んでいる国語の学力の向上が見られます。6年生全員でお互いに高め合うことができています。

さらに詳細を分析してみると、国語の「書くこと」は、全国よりもかなり正答率が高く、「読むこと」は全国よりも低い傾向となっています。**国語の課題は「読むこと」です。**

国語と比べて算数は平均正答率が低く、全体のレベルアップを図る必要があります。

算数は、特に「わり算」や既習の学習の活用に課題が見られます。

	青柳小	埼玉県	全 国
国 語	69 (+4.3)	65	64.7
算 数	65 (-5.2)	69	70.2

正答率 ※ () 内は対全国比

国語の「書くこと」の問題3の正答率は
全国：43.6%
青小：65.6%
「読むこと」には課題あり！

算数は、前の学年の積み残しがあり、
全体的にレベルアップが必要。
特に、「わり算」と、既習をつかった活用
問題が課題！

今回の結果は、6年生までの5年間の取組の結果です。国語も算数も学習の系統性があり、前の学年の学習の上に、今の学年の学習があります。学習の積み残しがあると、学年が上がるにつれて学習に追いつくことが困難になります。その学年の学習を着実に身につけることが大切です。「わり算」の課題は、学校全体で復習し解消していく取組を実施します。御理解、御協力のほど、よろしくお願いします。

裏面に全国学力・学習状況調査の問題を紹介しました。ぜひ、チャレンジしてみてください。

3 こんな問題に解答できるか確認を！

○参考：国立教育政策研究所
「令和3年度 報告書・調査結果資料」
<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/>

(1) 国語

②【読むこと】説明的な文章を読み、分かったことをまとめる（大問2「面ファスナー」）

三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題

- ・資料の文章と図表をもとに、面ファスナーの開発のヒントとなったこととその仕組みについて、50字以上80字以内でまとめて記述する問題

正答率: 34.6 %

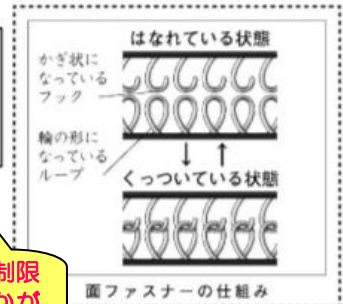
青柳小: 34.4 %

【資料】狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の先は曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

(正答例)

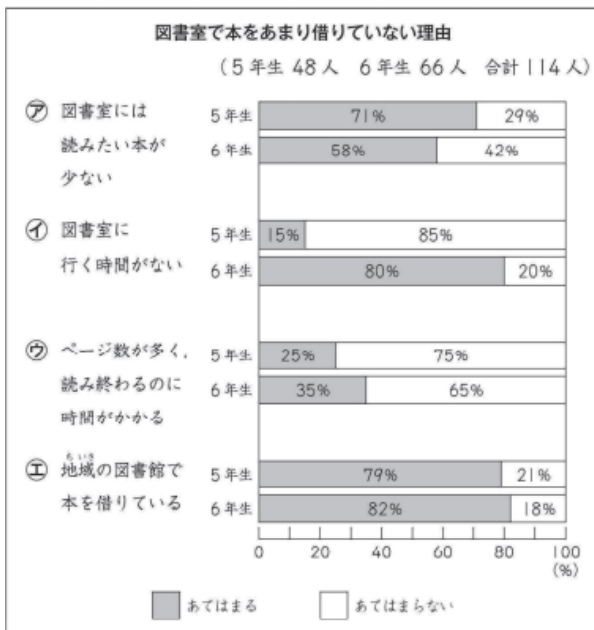
メストラは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

- ・ヒントになったことは書いているが、仕組みは書いていない…39.0%
- ・ヒントになったことは書いていないが、仕組みは書いている…11.8%
- ・どちらも書いていない…8.8%



内容を読み取り、字数制限のなかで要約できるかがポイントです！

(2) 算数【データの活用】



【問題】

5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。

また「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を言葉と数を使って書きましょう。

正答率: 55.2 %

青柳小: 53.8 %

データを比較し、言葉と数を使って説明することがポイント。社会に出て、かなり必要とされる力です。

(正答例)

5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、

⑧図書室に行く時間がないです。

5年生が15%で、6年生が80%です。

4 青柳小の「わり算」の課題解決を！

問題：8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式を答えましょう。

正答率: 55.2 %

青柳小: 34.4 %



答え 4÷8

誤答の多くは【8÷4】で、青柳小では、実に56.3%の児童がこの間違え方をしました。「なんだ、ケアレスミスじゃないか。」で済ませてはいけない問題です。わり算の意味を理解できていないか、国語の「読むこと」の力が不足している可能性があるからです。

ぜひ、上の問題をお子様といっしょに確認してみてください。誤答があった場合には、「どうしてそう考えたか」と理由を確認していくとよいです。さらに、似た問題で確認していくとお子様の理解が深まっていきます。

今後とも、国や県、青柳小学校の分析の結果を紹介し、各御家庭と連携を図り、子供たちの学力向上を図っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。